

【佳作】

フリースクールにて、渾身の一品

大穂かづみ・福岡県

私は、三十六才で、高齢出産後、しばらくして、難病を発症した。そのため、腎不全となり、治療で週三日は、病院潰け。

普通には働けない。受験生の息子は、私大文系志望。高額な学費の支払いの少しでも足しにしようと、仕事を探した。

見つけた仕事は、週一回、一時間でも良いと言う、フリースクール講師。美術、図工担当だ。昔、ちょっとだけ、教員をしていた。

そのスクールは、主にLDという発達障害を持つ子ども達のための場所だ。LDとは、文字や数字を書くことや、計算することが苦手、という特徴を持つ子ども達のことで、知能には、問題ない子が多い。しかし、発達障害の他の特徴、ADHD（注意欠如、多動性障害）また、自閉症スペクトラムなどの、別の複数の特徴を、少しづつ持ち合わせている子も多い。

ここは、小学生から高校生までの男女子女子合わせて十人以下の小さなスクールだ。ここでの授業は、熾烈、強烈、生半可ではやつて行けないものだつた。

彼らは、自分に正直に生きている。ホンネとタテマエという観念はない。ホンネのみで生きている。

だから、授業を受ける時も、面白いもの、楽しいものは、乗つて来る。しかし、面白くないもの、楽しくないものは、そっぽを向く。それどころか、つまらない授業だと、床に寝てしまうのだ。もつと極端な子は、ゴティネイに、押入れから、枕とかけ布団を持って来て、それを床にセットして寝てしまうのだ。授業が終わるまで。彼らは、嫌みでやつてているのではない。自分が、そうしたいから、しているだけなのだ。

最初はびっくりしたが、逆に闘志が湧いて来た。

様々な授業を試みたが、成功もあり、失敗もあつた。

皆が、がつり食いついて来たのは、手仕事の授業だ。中でも、「編む」ことで、身につける作品が、自分で作り出せる授業だ。

最初は、ミサンガ作り。刺繡糸で作る。編み方は、一番わかり易い平結びを選んだ。編み方を習得するには、細い刺繡糸では、わかりづらい。そこで、綿コードを何本か使って、ゆっくり見本を示した。子ども達も、まずは、綿コードで平結びの習得をした。その後、刺繡糸で編むことに挑戦して行つた。

子ども達の編む能力は、様々で、早い子はものの二十分ほどで、一本を仕上げた。

「先生、できたよ。」と、うでに結んで、うれしそうに見せてくれる。それを見た他の子たちも、それが刺激となって、増え、集中して作業に没頭する。中には、なかなか、編む順番が覚えられず、手が止まる子がいたが、こちらが少しずつ手助けすると、ひるまず、編み続けることが出来た。

この頃の授業は、一時限分が、二時間になっていた。しかし、誰一人、脱落することがなく、少なくとも、一人一本は、作り上げることが出来た。

思えば、授業のはじめ、「ミサンガを作るよ。」と伝えた時は、「先生、そんなの、百均で買えるやん。」と言つてくる子もいた。

しかし、いざ作り上げると、愛着が湧いたのか、家でも、ずっと着けていたそうだ。後日、その子のお母さんが、「これまで、何一つ、興味を持つものが無かつたが、このミサンガは、とっても気に入ったようで、ずっと着けている。」と喜んでおられたそうだ。

細い糸でできた小さなモノでも、自分の力で作り上げたものは、どれだけ良きモノになるのかを、身をもつて経験できたようだ。

もう一つは、指編みで作る小さなマフラーだ。五本の指に太糸の毛糸を通して、そこに一定の簡単な編み方で、編み続けて行く。太い毛糸で編むので、さくさく編める。ものの一時間で、それなりのマフラーが出来るので、ちょっと自信がついたようだ。

次は、手の代わりに、手作りの編み機を使って、帽子を編む授業だ。編み機といつても、工作用紙に凸凹をつけて王冠のように輪にした簡単なものだ。その編み機の凸凹のツメに毛糸を引っかけ、あとは、指編みの要領で、ハラマキほどの長さにして、上をギュッと絞ると帽子になる。皆、好きな毛糸で、せつせと編み続けた。出来上りにバラツキはあつたが、皆、ちゃんとかぶれる帽子に出来た。

次に、その編み機を一回り小さくして編む輪編みのマフラー作りだ。輪に編んで行くので、形くずれなく、編み続けられるので、長くて、暖かいマフラーになった。

校長先生に、「素敵ね。」と、ほめられ、帽子もマフラーも、校長先生にプレゼントした子もいた。各々、自分で使つたり、家族へのクリスマスプレゼントにしたり、うれしい輪が、ずいぶん広がる時間になつた。——編む、は心を豊かにしてくれる魔法のわざだ。